CSアクションプラン メインスローガン 「 未来の子　みんなの絆で　輝く瞳 」

未来を切り開く力をつけ ふるさとを愛し夢や希望に挑戦する更別の子どもを 地域総がかりで育てよう

どんぐり村の こみ・すく通信

令和8年11月10日発行　令和8年度第15号

更別村コミュニティ・スクール委員会事務局（教育委員会）

乳幼児触れ合い体験

９月１１日（金）、中央中３年生が家庭科の授業で、村内の乳幼児と触れ合う体験学習を行いました。７月中旬には、どんぐり保育園を訪れ、園児たちと一緒に水遊びを楽しみました。今回は、まだ言葉によるコミュニケーションが難しい発達段階にある乳幼児との触れ合い。そのため、最初はどのように関わればよいのか戸惑い、恐る恐る乳幼児に近づく姿もありました。しかし、時間が経つにつれて少しずつ緊張がほぐれ、自分から声をかけたり、目線を合わせたり、遊びに誘ったりするなど、積極的に関わろうとする様子が見られました。

途中、一緒に来られた保護者の方々に質問をさせていただき、親としての子育ての苦労や喜び、子どもへの思いなど、さまざまな話を聞くこともできました。

今回の体験を通して、生徒たちは自分自身の成長過程を振り返ることができたとともに、自分が親や周囲の大人に支えられて今日まで成長してきたことに気付くことができたようでした。また、乳幼児の発達や気持ちを理解しながら、自分たちにできることはどのようなことなのかを考える、貴重な学びとなりました。







みんなの学校応援団の活動を紹介〈その11〉

保健福祉課と社会福祉協議会から福祉の授業

９月１１日（金）、保健福祉課・藤田さん、社会福祉士・佐々木さん、社会福祉協議会・小丹枝さんの３名に来校していただき、更別小４年生を対象に「認知症サポーター養成講座」を実施しました。８５歳以上の４人に１人は発症していると言われている認知症。最初に佐々木さんから認知症とはどのような病気なのか、認知症の方と接するときにはどのようなことを心がければよいのかについて、わかりやすく説明していただきました。その後、寸劇「眼鏡はどこに行った！？」を見ながら、認知症の方への適切な声かけや対応の仕方について確認しました。



説明の様子



寸劇の様子　児童も登場

９月１５日（火）には、社会福祉協議会・小丹枝さん、庄司さん、中野さん、保健福祉課・藤田さん、社会福祉士・佐々木さんの５名に来校していただき、同じく更別小４年生を対象に車いすを体験する「福祉の授業」に取り組みました。車椅子に乗る人と介助する人に分かれて体験する中で、乗っている人が不安を感じないよう、丁寧で優しい声掛けをする姿が見られ、大変素晴らしいと感じました。最後には、年齢・性別・障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に楽しみ、競い合える「ボッチャ」にも挑戦しました。楽しみながら、福祉について考える有意義な時間となりました。



段差のある場所の移動



白い的玉に近いのは？